

【審査委員会特別賞】

団体名	石巻 ‘まるっと’ 高高連携応援団
活動の内容（概要）	<p>東日本大震災で顕在化した石巻地域の課題解決に向け、産業人材育成のため、専門高校5校（農・商・工・水産高）と行政、地元企業、NPOが連携し、地域課題解決型キャリア教育に取り組んでいる。</p> <p>コンセプトは、「米の消費拡大」と「魚食文化の発信」。石巻地域の資源を活用した商品開発と販売を通して6次産業化を実体験し、多様な人と関わることで、高校生がコミュニケーション力やプレゼンテーション力等、社会で生きていくために必要な力や地域への誇りと愛着形成を育む取組みである。H25年度は2種類の『米粉ピザ』を、H26年度は『まるっと煎餅』『おから入り米粉パン』、鯨とホヤを使った2種類の『コロッケ』を開発、パンとコロッケを合わせ『バーガー』と『まるっと煎餅』と3つを商品化し販売している。</p>

受賞理由

- ・5校（学科）の生徒が地域の資源を生かして商品開発に取り組むというユニークな事業であり、この取組を通して地域の産業界が協力・結集している。また、この産学協同の取組を通して、地域が震災復興に立ち上がっている。
- ・5つの高校を結びつける地域コーディネーターの役割が成果に結びついている。多くの地域で抱える地域産業離れに歯止めをかける事例になりうる。高校間と高校と産業界に結びつきが心強い事例である。
- ・様々な産業界が協力して社会が成り立っていることを体感させるという観点、取組が素晴らしい。
- ・産業界の尽力に敬意を表し、今後の更なる発展と改善に期待するとともに、参加生徒の拡大に取り組んでいただきたい。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者】

宮城県石巻北高等学校、宮城県水産高等学校、宮城県石巻工業高等学校
宮城県石巻商業高等学校、石巻市立女子商業高等学校

【行政】

宮城県東部地方振興事務所

【地域・社会】

特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク

【産業界】

〈まるっと応援企業〉(有)相澤製菓、青木物産(株)、JA いしのまき、(株)大沼製菓、(有)尾張技研、木の屋石巻水産(株)、(有)佐惣工務店、(株)精華堂霞総本舗、(株)ゼン・インターナショナル、(株)高政、豆腐工房すずきや、浜の駅 GAGA、ハローワーク石巻、ふれ・愛キッチン、ベルコルポ、(有)マル工、(株)萬楽堂、(株)宮富士工業、(株)ヤマサコウショウ、(株)ヤマホンバイフーズ

活動開始の経緯

平成 25 年 8 月、宮城県東部地方振興事務所「石巻地域課題解決型人材育成業務～石巻‘まるっと’高高連携事業」として、特定非営利活動法人まなびのたねネットワークが事業受託し事業を開始した。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本事業は、産学官民連携事業である。石巻地域は宮城県内で唯一、専門高校(農・商・工・水産)が集まっている地域である。ご存知の通り、東日本大震災では石巻地域の産業界も甚大な被害を受け、地域復興に向け、多数の企業が連携し商品開発や販売協力などを進めている。一方、地元高校生の水産業への理解不足や地元離れ、離職率の高さ、働く意欲の低さなどが顕在化し、人材育成が課題となっている。

復興そして地域産業活性化のためには、石巻地域全体で人材育成に取り組む必要性があった。そこで、H26 年 11 月 8-9 日に開催される全国産業教育フェア宮城大会での商品販売を目標に、県事業として石巻市内 5 校と企業が連携し、H25 年度より商品開発を行ってきた。事業の過程で直面した課題を解決することで、地域に貢献出来る人材の育成を目指している。

そこで、各関係機関の強みを活かすよう、以下のような役割分担し事業を進めている。

[高校] 各校の専門性を活かした主な役割は以下の通り。

石巻北高：米粉の提供、米粉パンやせんべいの開発・試作、せんべい商品説明作成

宮城水産高：海産物入りコロッケ開発・試作

石巻工業高：産業教育フェアでの販売用屋台の設計・製作、せんべいらベルデザイン作成

石巻商業高：ネーミング案プレゼン作成、POP デザイン作成

石巻市立女子商業高：プレゼン資料・広報チラシ作成、まるっとロゴ・シールデザイン

[企業] 石巻まるっと応援企業 21 社が、それぞれの強みを生かした協力・連携。

全体会での助言、商品開発・試作・製造への協力、企業視察・工場見学受入

屋台製作指導、せんべい販売協力、広報協力など

[東部地方振興事務所] 事業企画、企業開拓、企業・高校・行政間の連絡・調整、事務局全般

[NPO 法人まなびのたねネットワーク] 全体会・担当者会議の企画・進行、企業・高校との連絡・調整、事務局全般

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

事業は、産業教育フェアに向け、高校生が集まる全体会を中心に組み立てている。全体会に向け、先生方と事務局の担当者会議、全体会と全体会の間は各校での取組み、それをコーディネーターが連絡・調整等を行うという流れである。

最初に直面した課題は関わる教員の理解と協力である。年度途中からしかも前代未聞の専門分野が異なる高校同士の連携に対し、特定の教員にかかる負担感は計り知れない。各校から意欲のある協力的な先生が集まったとはいえ、最初は県担当者から一方通行の説明で終わってしまったため、「先生方に目的が十分に伝わらず、困惑される」という事態が起きた。そこで、キャリア教育支援を行っている当団体が事業受託し、東部地方振興事務所と連携・協働することとなった。限られた時間の中で開く担当者会議では、関わる先生方との目的や高校生の課題や身に付けさせたい能力などを共有し、意見交換しながら年度計画を立てたり、全体会の評価や分析、次回の流れや役割分担を決めてきた。また、当団体で本事業専属コーディネーターを雇用し、県担当者と共に各校へ足を運び関係機関との関係性構築を重視しており、細かな要望や相談、情報共有などにも丁寧に対応するよう心がけている。

高校生が集まる全体会では、何のために集まり、何をするのかを「MISSION」として提示し意識付けを図っている。基本的に全体会は、ワークショップ形式で進めている。小さな課題を明示し、高校生間の関係性も築きつつ合意形成ができる場づくりをする。H25年度は9月～3月で全5回と産業教育フェアプレ大会(2日間)を行った。全体会の中には、商品開発の実態を知るための企業視察(2社)、成果発表会も実施している。H26年度は先生方と年度初めに年間計画を立て、11月産業教育フェア宮城大会まで全7回実施。年度後半はふりかえりと成果発表会に向け動く。必要に応じて企業視察も入れ、高校生の学びと実社会をつないでいく。

全体会では、高校生には毎回ふりかえりとアンケートを実施しており、学びや気づき、思いの共有、事業の成果を取っている。また、企業や教員には定期的にアンケートやヒアリングを行い、意見を聞くよう努め次回に活かすよう取り組んでいる。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

5校連携という全国でも稀な取組みのため、一番苦労する点はスケジュールリングである。年間計画作成や学校訪問等を行う際は、学校の予定を最優先にスケジュールリングし活動を土曜日に設定し行って来た。昨年度の取組みでは2,3年生を中心に全体で12～15名の参加だったが、今年度は学校側の理解と事業の成果が見えて来た事から、各校参加者が増え今年度は1～3年、30名が登録し活動している。アンケートやヒアリング結果からも、関わる高校生達は一堂に「‘まるっと’は楽しい」と言っている。その理由として「沢山の人と関われるから。学校ではできない体験ができるから。」などである。

学校と企業の双方から挙げられていた課題が、まず高校生のコミュニケーション力向上であった。全体会では、石巻地域の地元企業の経営者や社員の方々に何度も足を運んでいただき、直接、目的をもった会話をする場を設定している。例えば、H25年度の全体会では、米粉ピザの開発を行い産業教育フェアでのアンケート調査にあたり、高校生と企業経営者が同じグループでアイディアを出し合うことを行い、話し合いができる工夫を行った。(※H25年は伊達政宗公家臣、支倉常長が慶長使節団としてイタリアに派遣され400年の記念の年であった。そのため石巻の資源である「米」の消費拡大と「魚食文化」の発信を目指し、ホタテとサバを使った米粉ピザ2種を開発に至った) また、成果発表会や商品発表会では複数の企業の方が集まる場面では、交流会を設け自由に緩やかに話せる機会をつくっている。

H26年度は、生徒達には「6次産業化を学ぶ」ことを伝えている。



高校生と企業が一緒に試食アンケートの内容を検討中



全国産業教育フェア宮城県大会で開発した商品をすすめる

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

本事業の目的は、高校生の人材育成である。そのため、今年の産業教育フェアで商品を販売するという形になるまでは・・・という関係機関の意向もあり大々的な広報は控えてきた。（高校生をマスコミから守るため：震災復興関係で報道の在り方を考えさせられている）

しかし、地元での理解促進という意味では、事業の当初からローカル紙である石巻日日新聞社や石巻かほくには取材をしてもらい新聞や石巻地域全戸配布されるフリーペーパーでの発信は積極的に行ってきた。また当団体が発信力の弱い小さなNPOだが、facebookでの発信は定期的に行っている。東部地方振興事務所からは、県内教育関係者、行政、地元企業等への発信を積極的に行っている。

継続・発展をするためには、「しくみ」づくりが不可欠である。教育界・産業界双方から、事業の継続を強く切望する声が多く寄せられている。事業費獲得のため、行政での予算化を働きかけると共に、企業からの寄付や協賛を募り『まるっと応援基金（仮）』の創設に向け関係者と意見を交わしている。

活動実績

具体的な取組欄で掲載した他、本事業を通して、様々な波及効果が出ている。主なものを4つ挙げる。

1) 小学校と高校生のコラボ授業の実施

石巻北高校がある石巻の河南は、内陸の米どころである。米をテーマに学んでいるという事で、石巻市立広瀨小学校から依頼があり、高校生が小学生に交流授業を行った。

2) 石巻北高校でのキャリアアップ講座

まるっと事業に関わるのは食農系列の生徒達だが、進路指導担当教員より教養系列の2・3年生を対象とした「キャリアアップ講座」の依頼が入った。年間4回、教員からの要望の下、地元企業の経営者と従業員の講話、ワークショップを組み合わせたプログラムを提案し、実施している。

3) 小学校と企業のコラボ授業の実施

当団体がキャリア教育で関わる小学校で、東部地方振興事務所との連携により、まるっと応援企業に協力をもらい、小学生が考えたアイデア（夢）を形にすることができた。

4) 企業の小学生向け「ものづくり」プログラム開発と実証

東部地方振興事務所と当団体で、今夏「まなびのたね塾」を開催。子ども達に「ものづくり」の楽しさを分かってもらいたいという企業の思いから、まずは企業の強みを活かしたプログラム開発を行い、夏休み期間で小学6年生を対象に実施した。行く行くは、学校での土曜授業等で実施できたらと考えている。

学校現場の評価・感想・コメント

「自分の考えを‘モノ’（商品）に入れられている。商品化の評価を意識して行動できている。」

「自分達が授業や部活動でやってきた事が、他校との関わりで裏のこと（作る、売る、買うという立場）が分かってきて、ただ自分達の作りたいものを作るのではなく、いろんな立場に立って考えられるようになった」

「高校生達が気づくことで成長しているのがよく分かる。生徒間の関わり合いがよい」

「普通の授業では見せない姿が見られる。意外な、新たな一面が見られて驚いている」

直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

「石巻地域の復興には必要で、素晴らしい取組み。是非継続して実施してほしいし、是非連携したい。」
（復興支援団体、企業等多数）

「違った専門性の高校の生徒達が交流をする事自体に大きな意義と価値がある。本事業に取り組むべき成果は高い。」(社会起業家大学九州校講師、NPO法人グラウンドワーク三島 前川氏)